GHIT Fund ANNUAL REPORT 2015

WE ARE EXPANDING. WE ARE ON THE GROUND. WE WILL DELIVER.

CONTENTS

AN UNYIELDING ETHOS 03
揺るぎない信念

WE WILL DELIVER 05
着実に生み出される成果

OUR PORTFOLIO 07
製品開発ポートフォリオ

WE ARE ON THE GROUND 09
製品化に向けて進む臨床試験

NEW PARTNERS, NEW PROMISE 11
新たなパートナーの参画と、広がる可能性

EXPANDING GLOBAL NETWORK 13
拡大する製品開発ネットワーク

PRIVATE-SECTOR ENGAGEMENT 15
民間企業の強い決意

FINANCES 17
財務報告

LEADERSHIP 19
リーダーシップ

AN UNYIELDING ETHOS

揺るぎない信念

Letter from Chair and CEO

We are expanding: 私たちは、ポートフォリオ、パートナーを拡大しています。

We are on the ground: 私たちは、開発途上国で、複数の臨床試験を実施しています。

We will deliver: 私たちは、製品を必ず患者に届けます。

2015年、河川盲目症の治療薬開発への多大なる貢献をされた大村智北里大学特別栄誉教授のノーベル医学生理学賞受賞によって、グローバルヘルスR&Dは再度注目を集めることになりました。イベルメクチンは世界中の人々の生活や、コミュニティの状況を一変させるとともに、官民連携による製品開発の成功事例として、日本の優れた創薬技術や独創性を象徴する事例そのものでした。

イベルメクチンに加えて、これまでに多くの治療薬、ワクチン、診断薬が開発されましたが、開発途上国における感染症の疾病負担は今なお極めて大きなものです。しかし、私たちは将来を前向きに見据えています。GHIT Fundの活動を通じて、画期的な製品開発が着実に進んでおり、具体的な成果がもうすぐ手に届くところまで来ています。こうした製品を人々の元に確実に届けるために、GHIT Fundは日本と海外のパートナーシップ構築を促進し、各セクターの強みや能力を最大化することでイノベーションの創出を加速してきました。

上段左から：野木森雅郁氏（アステラス製薬株式会社代表取締役会長）、内藤晴夫氏（エーザイ株式会社代表執行役CEO）、手代木功氏（塩野義製薬株式会社代表取締役社長）、トレバー マンデル氏（ビル&メリンダ・ゲイツ財団 グローバルヘルスプログラムプレジデント）、長谷川閑史氏（武田薬品工業株式会社 代表取締役 取締役会長）、中山譲治氏（第一三共株式会社代表取締役社長兼CEO）、牛尾光宏氏（厚生労働省大臣官房審議官）、黒川清（GHIT Fund代表理事・会長）、尾池厚之氏（外務省大臣官房地球規模課題審議官大使）、スリングスビー BT（GHIT Fund CEO）、山谷裕幸氏（厚生労働省大臣官房国際課国際協力室長）、日下英司氏（外務省地球規模課題総括課企画官、国際保健政策室長）、石黒光氏（日本医療政策機構理事）、ピーター ピオット氏（ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長）、コー ヤン タン氏（モリソン&フォスター シニアカウンセラー） ※所属及び役職は2015年6月5日時点。GHIT Fundの理事、アン ヴェネマン氏（元国連児童基金UNICEF事務局長、元米国農務長官）、マヒマ ダトラ氏（バイオロジカル・イーリミテッド マネージング・ディレクター）、キム ブッシュ氏（ビル&メリンダ・ゲイツ財団 ライフサイエンス・パートナーシップ ディレクター）、リチャード シーブルック氏（ウェルカム・トラスト イノベーションズ・ビジネス開発部門長）は当日評議会を欠席。

GHIT Fundは製品開発への投資を行うだけでなく、民間企業で用いられる厳格なポートフォリオマネジメントを実践することで、製品開発を成功へと導きます。この点において、私たちは揺るぎない信念を持ち、期待以上の結果を生み出すことを目指しています。多くの人びとが感染症のリスクにさらされている中で、結果が見込めない製品候補に投資することは難しいでしょう。製品化に至る可能性が低いプロジェクトに厳しくするのではなく、製品化を期待できる製品候補に対して、研究者や研究機関の限られた時間と資源を集中させる必要があるのです。

GHIT Fundのパートナーの創造性、知見、コミットメントによって、日々私たちは勇気づけられ、より大きなインパクトを生み出すことができるのです。関係者の皆様に感謝を申し上げるとともに、これからも皆様とともに、より健康で、豊かな世界を作り上げることを楽しみにしています。このアニュアルレポートを通じて、GHIT Fundが投資する探索研究から臨床試験における様々な進捗を報告できることを嬉しく思います。

黒川 清
GHIT Fund会長

スリングスビー BT
GHIT Fund CEO

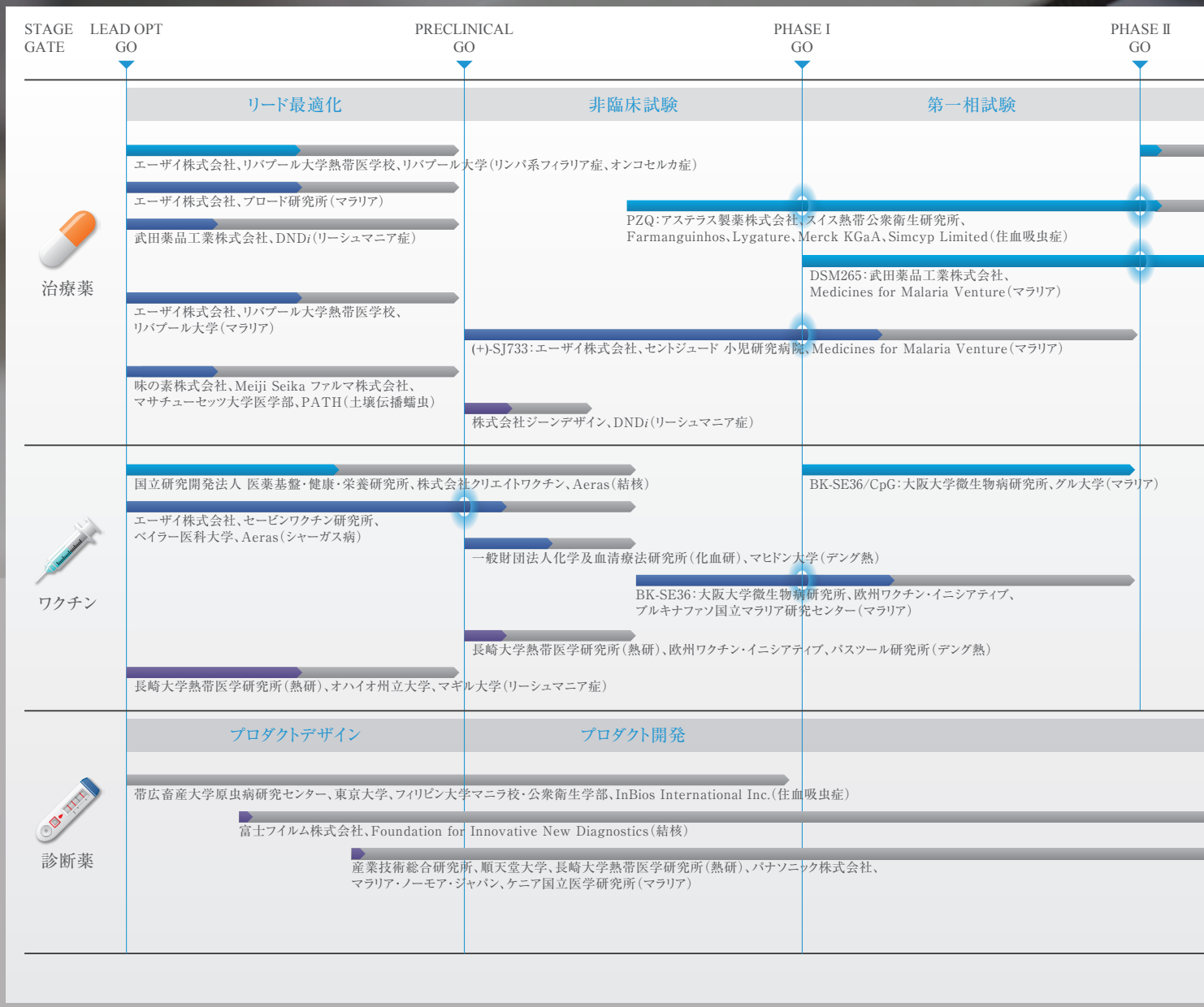
WE WILL DELIVER

着実に生み出される成果

GHIT Fundは設立からわずか3年で確固とした製品ポートフォリオを構築し、日本の技術、知見、イノベーションを活用した製品開発を推進してきました。GHIT Fundにとっての成功とは、単にガバナンスがうまく機能し、ポートフォリオマネジメントを行い、日本のイノベーションを活用することだけを意味するのではありません。開発途上国の人々でも購入可能な価格帯の、効果的な治療薬、ワクチン、診断薬の製品化を実現することです。

GHIT Fundは、これまでに60件以上の製品開発パートナーシップに対して、総額約60億円以上を投資してきました。日本の機関が36団体、海外の機関41団体が製品開発に参画しており、企業、研究機関、アカデミア、NGOなど多種多様な機関がGHIT Fundとともに製品開発を推進しています。国内外の製品開発パートナーによって、グローバルヘルスにおける製品開発のあり方が抜本的に変わろうとしています。

2013年のGHIT Fundの設立以降、スクリーニングプログラムにおいて18のヒット化合物群の導出に成功し、また、非臨床試験候補製品を7件を導出しました。さらに、臨床

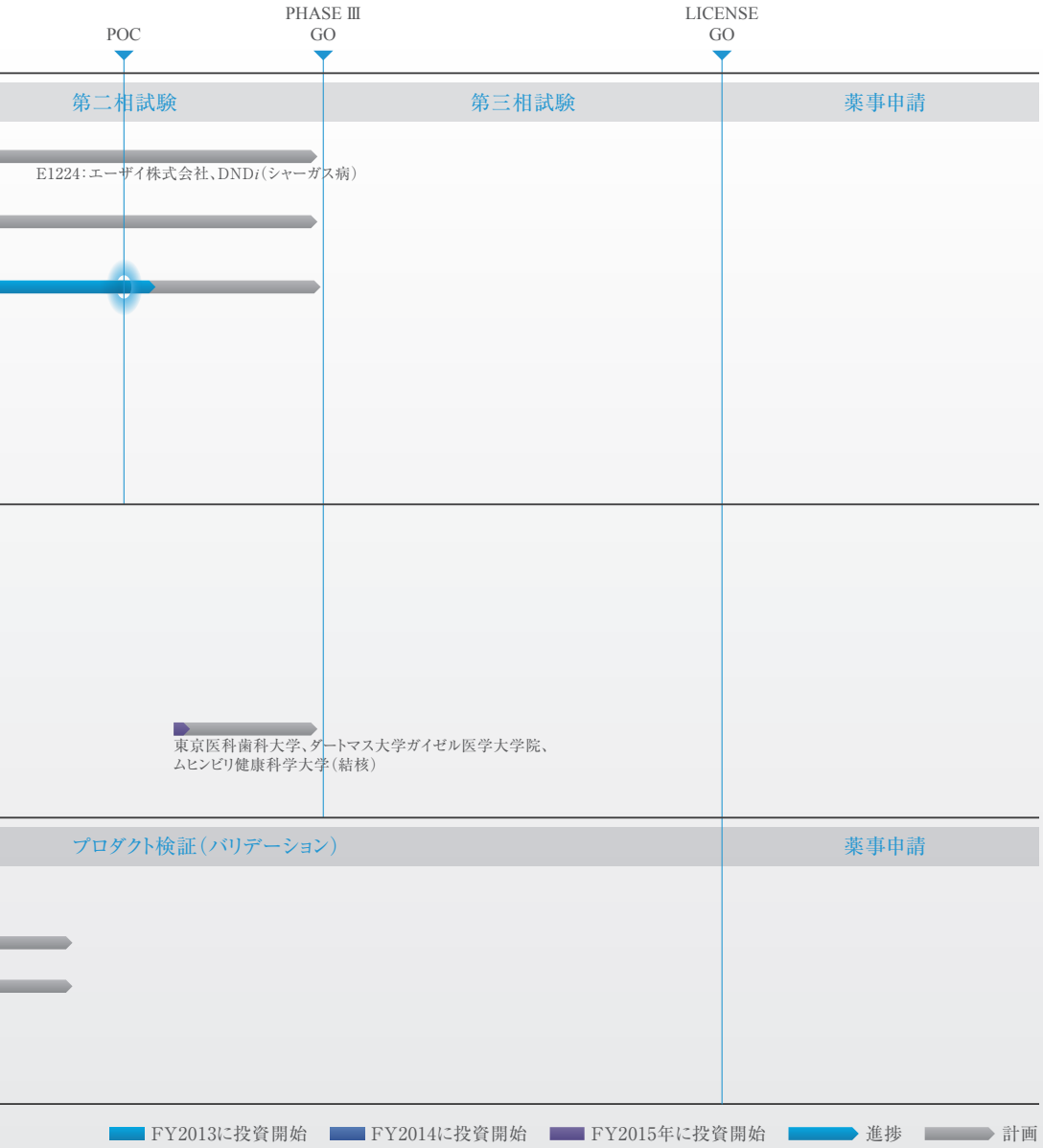


試験候補製品を7件導出し、そのうち1件が第二相試験の概念実証（Proof of Concept: POC）を達成しています。これらの実績は、製品開発パートナーが強力なリーダーシップを発揮し、開発案件のゴールに向けて徹底的に取り組んでいることの表れです。

このように、世界の人々の健康を改善するための革新的な製品を創出するというのは単なる熱望ではありません。製品化に向けて、着実に成果が生み出されているのです。

私がGHIT Fundを支援する最も重要な理由の一つは、日本の製薬企業の効果的なエンゲージメント、すなわち企業の主体的な取組や貢献が大きな影響をもたらしているからです。製品開発は極めて難しいものですが、製薬企業がGHITに参画する上で重要かつ画期的なのは、化合物ライブラリーの提供や有能な研究者の製品開発への参画です。

ビル ゲイツ
ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同議長



18
ヒット化合物群を導出

7
非臨床試験
候補製品を導出

7
臨床試験
候補製品を導出

1
概念実証（POC）を達成

OUR PORTFOLIO

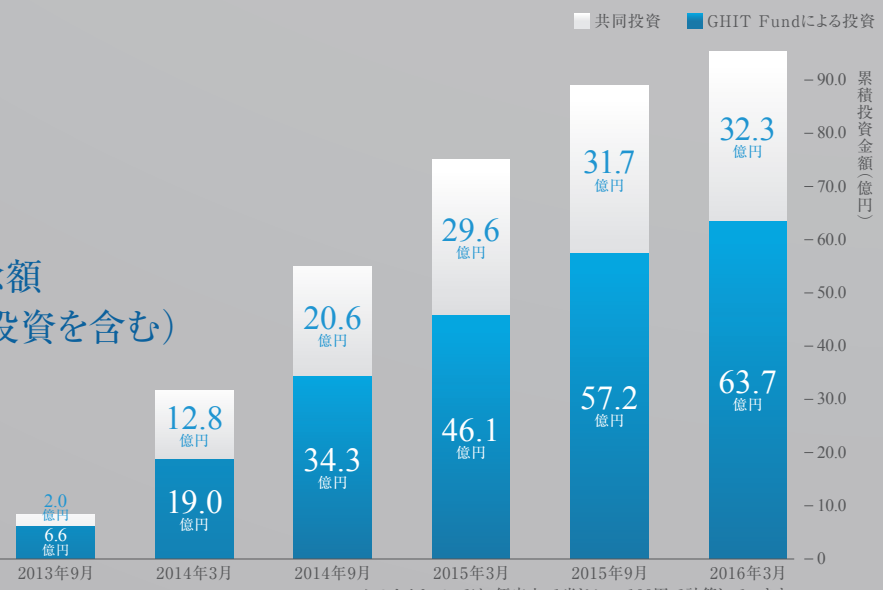
製品開発ポートフォリオ

探索研究

	標的研究プログラム	スクリーニングプログラム
マラリア	Drug: Takeda, MMV Diagnostic: 愛媛大学, FIND, CFS	Drug: Sumitomo Dainippon Pharma, MMV Drug: 微生物化学研究所, MMV Drug: Mitsubishi Tanabe Pharma, MMV Drug: GlaxoSmithKline, MMV Drug: 北里研究所, MMV Drug: 第一三共プロファーマ株式会社, MMV
結核		Drug: 第一三共プロファーマ株式会社, TB ALLIANCE Drug: Sumitomo Dainippon Pharma, TB ALLIANCE Drug: Mitsubishi Tanabe Pharma, TB ALLIANCE Drug: HyphaGenesis, TB ALLIANCE Drug: GlaxoSmithKline, TB ALLIANCE Drug: CHUGAI, TB ALLIANCE
顧みられない熱帯病		シャーガス病 / リーシュマニア症 Drug: Eisai, DNDi Drug: 微生物化学研究所, DNDi Drug: Takeda, DNDi Drug: Daiichi-Sankyo, DNDi Drug: 北里研究所, DNDi

96 億円

投資総額
（共同投資を含む）



このセクションでは、便宜上、1米ドル ＝ 100円で計算しています。

ヒット・トゥ・リードプログラム

- Drug: 北海道大学 / 北里研究所 / MMV
- Drug: Daiichi-Sankyo / MMV
- Drug: Eisai / MMV
- Drug: Takeda / MMV

- Drug: Daiichi-Sankyo / TB ALLIANCE
- Drug: SHIONOGI / TB ALLIANCE
- Drug: Takeda / TB ALLIANCE

- Drug: Eisai / SHIONOGI / Takeda / DNDi

非臨床試験

製品開発プログラム

- Drug: Eisai / BROAD INSTITUTE
- Vaccine: 愛媛大学 / mvi / PATH
- Drug: Eisai / St. Jude Children's Research Hospital / MMV
- Vaccine: CFS / UNIVERSITY OF FLORIDA
- Drug: Eisai / LSTM / UNIVERSITY OF LIVERPOOL
- Diagnostic: Panasonic / AIST / malaria DIAGNOSTICS japan

- Vaccine: NIBIO / AERAS

シャーガス病

- Drug: Eisai / BROAD INSTITUTE
- Vaccine: Eisai / SABIN / Baylor College of Medicine / AERAS

デング熱

- Vaccine: 化血研 / Mahidol University
- Vaccine: Institut Pasteur

リーシュマニア症

- Drug: Takeda / DNDi
- Drug: GeneDesign, Inc. / DNDi
- Vaccine: McGill

リンパ系フィラリア症 / オンコセルカ症

- Drug: Eisai / LSTM / UNIVERSITY OF LIVERPOOL

住血吸虫症

- Diagnostic: 東京大学 / THE UNIVERSITY OF TOKYO / InBios

土壌伝播寄生虫症

- Drug: AJINOMOTO / meiji / PATH / University of Washington

臨床試験

製品開発プログラム

- Drug: Takeda / MMV
- Vaccine: OSAKA UNIVERSITY / EVI

- Vaccine: 東京医科歯科大学
- Diagnostic: FUJIFILM / FIND

- Drug: Eisai / DNDi

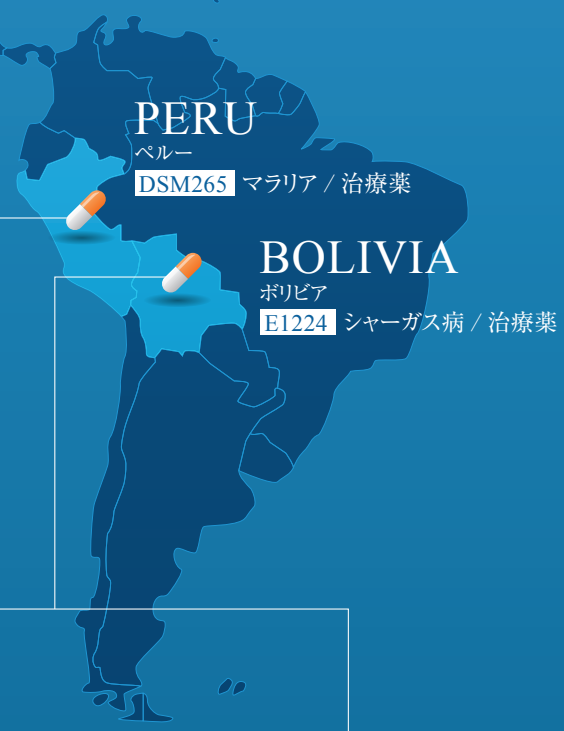
- Drug: astellas / MERCK / SIMCYP / ligature / SwissTPH

各プロジェクトの詳細については、GHIT Fundのウェブサイトを御覧ください。https://www.ghitfund.org/impact/portfolio/advance

WE ARE ON THE GROUND

製品化に向けて進む臨床試験

現在、マラリア、結核、シャーガス病、住血吸虫症の蔓延地域にて、これらの疾患に対する6つの臨床試験が行われています。数年後、臨床試験を経て製品化に成功すれば、感染症に苦しむ患者、コミュニティ、そしてその地域経済に大きなインパクトをもたらすことになるでしょう。



DSM265

疾 患：マラリア
製 品：治療薬
開発段階：第二相試験（Phase Ⅱb）
実施国：ペルー

DSM265 はマラリア原虫ジヒドロオロト酸脱水素酵素（DHODH）に対する新規の選択的阻害薬で、速効性の抗マラリア薬との併用療法に用いることが期待される長時間作用型の単回投与薬剤。熱帯熱マラリア原虫（P.falciparum）または三日熱マラリア原虫（P.vivax）に感染した患者を対象に第二相試験（Phase Ⅱa）をペルーにて実施完了。Phase Ⅱb の開始に先駆けて、DSM265 の市販用製剤処方開発も進めている。

Takeda　MMV Medicines for Malaria Venture

E1224

疾 患：シャーガス病
製 品：治療薬
開発段階：第二相試験（Phase Ⅱa）
実施国：ボリビア

現在、シャーガス病に使用されている2種類の治療薬は数十年前に発見されたもので、この病気の慢性期の治療効果には差があり、また成人における忍容性が不十分であることが知られている。シャーガス病の新しい治療選択肢を提供するために、エーザイとDND*i*は共同で、エルゴステロール生合成阻害作用を持つ新世代トリアゾール系化合物であるE1224と、現在の治療薬であるベンツニダゾール（標準量および減投与量）の併用について第二相試験を実施しており、E1224が、特に成人で優れた忍容性を持ちながら、これまでの治療と同等もしくはより強い効果を持つ画期的な新規治療薬となるかを評価している。また、将来の新薬承認申請に備え必要となる、原薬プロセス研究と製剤開発研究、品質管理研究、非臨床試験を実施予定である。

Eisai　DNDi Drugs for Neglected Diseases initiative

6 Countries

BURKINA FASO
ブルキナファソ
BK-SE36 マラリア / ワクチン

UGANDA
ウガンダ
BK-SE36/CpG マラリア / ワクチン

IVORY COAST
コートジボワール
PZQ 住血吸虫症 / 小児用治療薬

TANZANIA
タンザニア
DAR-901 結核 / ワクチン

PZQ

疾 患：住血吸虫症
製 品：小児用治療薬
開発段階：第二相試験（Phase IIa）
実施国：コートジボワール

住血吸虫症に有効な標準的治療薬として、成人及び就学児童を対象にプラジカンテルが投与されている。しかし、錠剤の大きさに起因する窒息リスク、薬剤の苦味など、乳幼児を含む就学前児童には投薬が難しいのが現状である。新たに開発された小児用製剤は、現行錠よりも小型の口腔内崩壊錠であり、苦味が低減された。また、熱帯地域の気候に耐えうるように設計された。現在、コートジボワールで第二相試験を実施中で、乳幼児を含む就学前の児童における有効性と安全性、適切な用量が検証されている。

astellas Leading Light for Life　MERCK　simCYP　lygature　Swiss TPH　fundação manguinhos

DAR-901

疾 患：結核
製 品：ワクチン
開発段階：第二相試験（Phase IIb）
実施国：タンザニア

現在、開発中の結核ワクチンのうち、人において唯一有効性が示されているものとして、追加接種を目的とする全細胞性不活化ワクチンDAR-901がある。DAR-PIA試験は第二相試験（Phase IIb）に進んでおり、DAR-901ワクチンをタンザニアの青少年を対象に追加接種し、より早い段階で、結核の感染そのものを予防するかどうかを検証する。

国立大学法人 東京医科歯科大学　GEISEL SCHOOL OF MEDICINE AT DARTMOUTH

BK-SE36
BK-SE36/CpG

疾 患：マラリア
製 品：ワクチン
開発段階：第一相試験（Phase Ia/Ib）
実施国：ブルキナファソ、ウガンダ

マラリアに対する効果的で長期的な防御対策のためワクチン候補BK-SE36は、現在ブルキナファソで第一相試験を実施中。本臨床試験では、これまで実施したことのない低年齢層（1–5歳児）を対象に行っており、安全性、免疫原性および有効性に関する追加情報を収集することを目的とする。これまでに実施されたウガンダでの臨床試験結果と、マラリアの疾患流行特性について異なるブルキナファソでの臨床試験結果についても比較を行う。

OSAKA UNIVERSITY Live Locally, Grow Globally　EVI

NEW PARTNERS, NEW PROMISE

新たなパートナーの参画と、広がる可能性

GHIT Fundは2013年4月に、日本政府、日本の製薬企業5社、ビル&メリンダ・ゲイツ財団による官民パートナーシップによる100億円規模の基金として設立されました。設立から3年が経過した今、私たちの活動は大きく成長しています。新規の資金拠出パートナーの参画、既存のパートナーからの増資によって、現在では基金の規模は140億円にまで成長しました。2015年、ウェルカム・トラストがフルパートナーとして、シスメックス株式会社がアソシエイトパートナーとして、全日本空輸株式会社、モリソン&フォースター、ヤフー株式会社がスポンサーとしてGHIT Fundへの参画を決定しました。新たな資金拠出パートナーは、GHIT Fundの投資拡大に貢献し、スポンサーは法務、コミュニケーション、交通に関するサービス・役務をGHIT Fundに提供することで、GHIT Fundの管理費削減に寄与し、管理費は5%という低水準で維持されています。さらにこれだけに留まらず、GHIT Fundはパートナー拡大を加速させています。大塚製薬株式会社、協和発酵キリン株式会社、グラクソ・スミスクライン、ジョンソン&ジョンソン、大日本住友株式会社、田辺三菱製薬株式会社、ニプロ株式会社、富士フイルム株式会社、メルク(Merck KGaA)が新たな資金拠出パートナーとして、株式会社セールスフォース・ドットコムがスポンサーとしての参画を発表しました。新たに参画を決めた国内外の企業、財団それぞれがグローバルヘルスの課題解決に貢献するという強い信念を持ち、協働することによって変革を生み出すことができると確信しています。パートナーの拡大によって、活動の幅がさらに広がり、創出されるインパクトはより大きく、さらに効率的な運営を行うことができます。

2013

Partners

外務省 MOFA Japan / 厚生労働省 / UNDP / Bill & Melinda Gates foundation / astellas / Daiichi-Sankyo / Eisai

Sponsor

SHIONOGI / Takeda / MORI

2014

Partner

CHUGAI ロシュ グループ

2015

Partners

sysmex / wellcome trust / ANA

Sponsors

MORRISON FOERSTER / YAHOO! JAPAN

2016

Partners

FUJIFILM / gsk / Johnson & Johnson / KYOWA KIRIN / MERCK / Mitsubishi Tanabe Pharma / NIPRO

Sponsor

Otsuka / Sumitomo Dainippon Pharma / salesforce

= 創設パートナー

上記の図は、各パートナー・スポンサーがGHIT Fundへの参画を表明した年度を表しています。

エボラ危機は国際社会に対して、グローバルヘルス分野におけるイノベーションの創出が急務であること、そして産業界とグローバルヘルスコミュニティがいかにうまく連携して新たな解決策を導くことができるかという課題を突きつけました。GHIT Fundとの連携を通じて、今後長期にわたってグローバルヘルスの課題に対してさらに積極的に取組みを行うとともに、当社に蓄積されたイノベーションを最大限に活用していきます。

古森 重隆
富士フイルム株式会社 代表取締役会長・CEO

大塚製薬は、’Otsuka-people creating new products for better health worldwide’の企業理念のもと、トータルヘルスケアカンパニーとして世界の難しい健康問題に挑戦し、アンメットメディカルニーズ解決に向けて独創的で革新的な製品を生み出してまいりました。結核領域では30年以上に及ぶ長期コミットメント（研究開発投資）により、約半世紀ぶりの新規抗結核薬「デラマニド」を創出しました。さらに、この度のGHIT Fundへの参画により、世界の人々の健康に一層貢献できるものと確信しています。

樋口 達夫
大塚製薬株式会社 代表取締役社長

当社は、国内外の人々に革新的で有用な医薬品を届けるため、新薬の研究開発に全力を注いでいます。GHIT Fundとの連携を通じて、さらにグローバルな活動を展開するとともに、当社の技術を活用して開発途上国の感染症制圧に貢献していきます。

多田 正世
大日本住友製薬株式会社 代表取締役社長

私たちはエボラ危機を通じて、感染症がもたらしうる甚大な被害というものを再認識させられました。しかし、いったんエボラ危機が収束しても、他の数多くの感染症が世界の貧困層の健康に大きな影響を与え続けています。ウェルカムトラストはGHIT Fundと連携し、日本のイノベーションを用いて、アンメットニーズを解決していきたいと考えています。

スティーヴン キャディック
ウェルカム・トラスト イノベーションディレクター

グローバリゼーションにより、世界がますます繋がる一方で、感染症が世界に広がるリスクも増加しています。こうした問題に対して取り組むことは、グローバルネットワークを拡大していくANAの社会的責務であると考えています。

篠辺 修
全日本空輸株式会社 代表取締役社長

EXPANDING GLOBAL NETWORK

拡大する製品開発ネットワーク

18
カ国

36
製品開発に参画する
日本機関

41
製品開発に参画する
海外機関

64 パートナーシップへの投資（継続案件を含む）

PRIVATE-SECTOR ENGAGEMENT

民間企業の強い決意

GHIT Fundの資金拠出パートナーである製薬企業をはじめとして、グローバルヘルスの課題に対して積極的に取り組む企業が増えており、医療へのアクセスの向上や、開発途上国向けの医薬品の価格付けなど、企業の経営方針や具体的な活動にも表れています。

こうした活動は、製薬企業にとっても将来の市場への布石となり、そして製品ポートフォリオの拡大にも寄与するでしょう。企業のリーダーは、GHIT Fundを通じたグローバルヘルスR&Dの活動の先頭に立ち、強い決意を表明しています。

グローバル化が進んで人の移動が頻繁になると、一地域で発生した感染症などの健康問題が、全世界の人々の健康に影響を及ぼす可能性が高まります。感染症薬を開発し、そうしたリスクをコントロールすることは製薬企業の使命でしょう。しかし、1社で対処するにはあまりにも大きな課題です。そこで、当社の強みである新薬開発ノウハウと製剤技術をベースに、政府機関、アカデミア、NPOなどと協働することで、規模の大きいグローバルヘルス活動を実現できると考えています。

畑中 好彦
アステラス製薬株式会社 代表取締役社長CEO

当社はバイオ技術で作られる蛋白質などのバイオ（高分子）医薬品を強みとしており、それを生かした新薬開発に取り組んでいきます。具体的には、デング熱です。日本も含めたアジア全体に広がり、国内でも注目されています。デング熱には病原菌が4種類ありますが、全てを1つで網羅できる薬をつくりたい。いい薬ができれば、若い労働力を確保でき、経済活動の中心を担う中間層が生まれます。人口が急増するアジアの成長は、日本や世界経済の発展につながる問題です。

永山 治
中外製薬株式会社 代表取締役会長 最高経営責任者

エーザイは2010年にリンパ系フィラリア症の治療薬を合計22億錠無償提供する契約をWHOと締結し、13年から供給を始めました。また、南米の貧困層に蔓延しているシャーガス病の新薬開発をめざし、GHITから助成を受けています。NTDsに脅かされる人々が健康を回復し、就労可能になれば、中間所得層が拡大して途上国の経済発展につながるでしょう。こうして中長期的に新薬の市場が形成されると考えています。グローバルヘルスの改善は、日本や世界の経済にも好循環をもたらすはずです。

内藤 晴夫
エーザイ株式会社 代表執行役CEO

これまで日本はODAを通じて途上国のインフラ整備を中心に投資してきました。インフラが整い、衣食が充足すると、人々の健康への関心が高まります。日本は世界でも有数の新薬創出国ですので、その能力・技術を生かせば、相手国にとって真に意義のある貢献ができるはずです。GHITの仕組みは、企業だけでなく日本の国際イメージを作る上でも、非常に有効です。

手代木 功
塩野義製薬株式会社 代表取締役社長

マラリアや顧みられない熱帯病は、「ビジネスにならない」とされてきました。新薬の開発には莫大な費用がかかりますから、製薬企業にとっては関心があっても単独では取り掛かりにくい分野でした。創薬というのは、新たな発見やテクノロジーの進歩があったからといって、事業としてうまくいくのはごくわずか。金脈を掘るような作業です。ただ、その過程で、たくさんの知見を得ることができ、社内に蓄積がありますから、それを活かして第一三共ならではの社会貢献をしていきます。

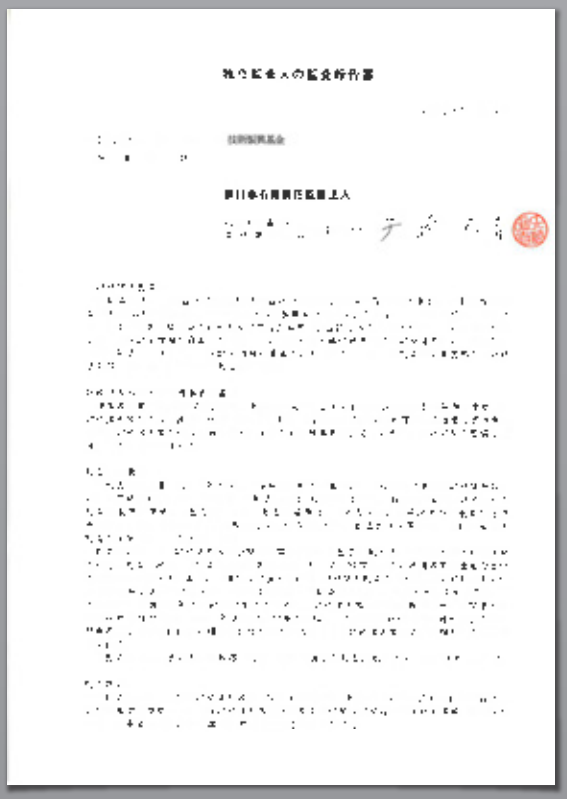
中山 讓治
第一三共株式会社 代表取締役社長兼CEO

今、既存の抗マラリア薬への耐性が強まっており、新薬が求められています。当社はマラリアの撲滅に向けて、従来よりも持続性の高い新薬の開発を進めています。この件に対し、GHITから共同研究機関であるMMVが約2.5億円の助成を受けました。GHITは、政府と民間の製薬会社、アカデミックなどが協業できる革新的な仕組みで、感染症対策に効果的な取り組みができると考えます。当社にない化合物のライブラリーや、現地のネットワークにアクセスできることは、非常に貴重です。

クリストフ ウェバー
武田薬品工業株式会社 代表取締役社長 CEO

FINANCES

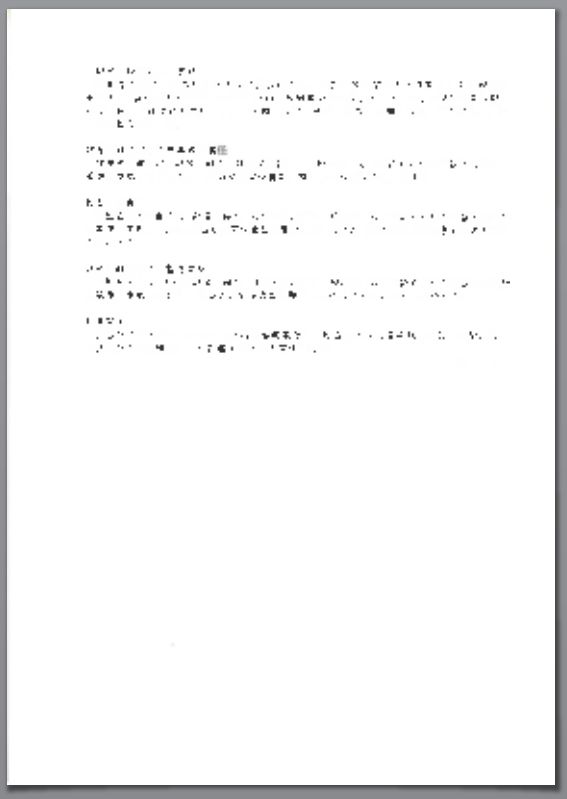
財務報告



独立監査人の監査報告書

[illegible]

[illegible]



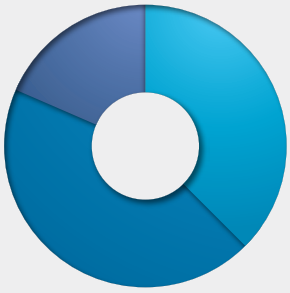
2015年度　決算書概要

貸借対照表

資産	百万円	百万米ドル
流動資産	¥289.9	$2.6
固定資産	2,015.6	17.9
資産合計	¥2,305.5	$20.5

指定正味財産（資金調達額）	百万円	百万米ドル
受取補助金（政府、国際機関）	¥1,219.4	$10.8
受取補助金（財団）	1,420.5	12.6
受取寄付金（企業）	600.0	5.3
指定正味財産合計（資金調達総額）	¥3,239.9	$28.7

負債及び正味財産	百万円	百万米ドル
負債合計	¥370.9	$3.3
正味財産合計	1,934.6	17.2
負債及び正味財産合計	¥2,305.5	$20.5



指定正味財産（資金調達額）

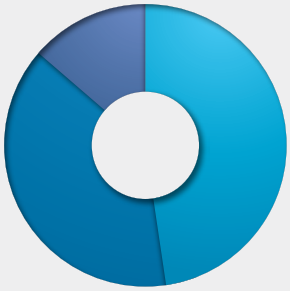
37.6% 受取補助金（政府、国際機関）

43.9% 受取補助金（財団）

18.5% 受取寄付金（企業）

正味財産増減計算書

経常収益	百万円	百万米ドル
受取補助金（政府、国際機関）	¥1,219.4	$10.8
受取補助金（財団）	977.7	8.7
受取寄付金（企業）	346.9	3.1
経常収益計	¥2,544.0	$22.6
前期繰越金	¥0	$0



経常収益

47.8% 受取補助金（政府、国際機関）

38.5% 受取補助金（財団）

13.7% 受取寄付金（企業）

経常費用	百万円	百万米ドル
事業費	¥2,394.0	$21.3
管理費	123.0	1.1
経常費用計	¥2,517.0	$22.4

経常費用

95.1% 事業費

4.9% 管理費

当決算書概要の米ドル額は、便宜上、2015年度3月末現在におけるおおよその為替レートである1米ドル=112.62円で計算しています。

本概要は、新日本有限責任監査法人の監査に基づくGHIT Fundの監査済み財務諸表から抜粋したものです。
GHIT Fundは、公益社団法人として日本国内に登記されています。

LEADERSHIP
リーダーシップ

GHIT Fundへの資金拠出パートナーであり、かつGHIT Fundから製品開発の投資を受ける可能性にある製薬企業とGHIT Fundとの間に利益相反が生じないことを目的に、GHIT Fundには厳格なガバナンス体制が敷かれています。GHIT Fundに対する資金拠出パートナーである製薬企業は、GHIT Fundの投資案件の評価や選定、ポートフォリオ・マネジメントなどの意思決定に関する一切の権利を放棄しており、その権利はGHIT Fundの理事会やマネジメントチームに委ねられています。このようなガバナンス体制を導入することで、基金運営の透明性、公平性を確保し、ステークホルダーに対する説明責任を果たしています。

評議会

［役割・機能］評議会と理事会メンバーの選任又は解任／定款の設定と改定／理事の雇用条件の決定／GHIT Fundのためのアドボカシー活動／決算の承認

評議委員
相星 孝一
外務省
大臣官房地球規模課題審議官大使

評議委員
山本 尚子
厚生労働省
大臣官房審議官

評議委員
トレバー マンデル
ビル＆メリンダ・ゲイツ財団
グローバルヘルスプログラムプレジデント

評議委員
アステラス製薬株式会社
畑中 好彦
代表取締役社長CEO

評議委員
エーザイ株式会社
内藤 晴夫
代表執行役CEO

評議委員
塩野義製薬株式会社
手代木 功
代表取締役社長

評議委員
第一三共株式会社
中山 譲治
代表取締役社長兼CEO

評議委員
武田薬品工業株式会社
クリストフ ウェバー
代表取締役社長 CEO

評議委員
中外製薬株式会社
永山 治
代表取締役会長 最高経営責任者

理事会

［役割・機能］中期戦略の承認／年次計画・予算の承認／選考委員会の委員の選任又は解任／選考委員会の選定基準及び優先順位の承認／投資案件の承認

代表理事・会長
黒川 清
政策研究大学院大学客員教授
日本医療政策機構代表理事

副会長
ピーター ピオット
ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長
元国連合同エイズ計画（UNAIDS）事務局長

専務理事
スリングスビー BT
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
CEO

理事
アン ヴェネマン
元国連児童基金（UNICEF）事務局長
元米国農務長官

理事
マヒマ ダトラ
バイオロジカル・イー・リミテッド社
マネージングディレクター

理事
日下 英司
外務省地球規模課題総括課企画官
国際保健政策室長

理事
山谷 裕幸
厚生労働省
大臣官房国際課国際協力室長

監事
石黒 光
日本医療政策機構
理事

監事
コー ヤン タン
モリソン＆フォスター シニアカウンセラー
元世界銀行副総裁兼法律顧問

オブザーバー
キム ブッシュ
ビル＆メリンダ・ゲイツ財団
ライフサイエンス・パートナーシップディレクター

オブザーバー
リチャード シーブルック
ウェルカム・トラスト
イノベーションズ・ビジネス開発部門長

選考委員会

［役割・機能］申請者からのプロポーザル、及び進捗報告書の審査・評価／審査・評価結果に基づく理事会への投資案件の推薦／投資案件推薦に関する自立性、説明責任、透明性の確保

選考委員
北 潔
長崎大学大学院
熱帯医学・グローバルヘルス研究科
教授・研究科長

選考委員
デニス シュマッツ
元米国メルク・リサーチ・ラボラトリーズ
感染症研究所所長
元日本MSD研究所所長

選考委員
ケン ダンカン
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
Discovery & Translational Sciences部門
次長

選考委員
アン ミルズ ドゥガン
ウェルカム・トラスト
イノベーションズ・ビジネス開発部門
Seeding Drug Discovery Fund統括

選考委員
服部 浩二
名古屋市立大学特任教授
東北大学大学院医学系研究科非常勤講師

選考委員
ペニー ヒートン
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
ワクチン開発&サーベイランスディレクター

選考委員
ゲルド ミシェル
Vela Diagnostics
チーフ・サイエンティフィック・オフィサー

選考委員
森 康子
神戸大学大学院医学研究科
感染症センター臨床ウイルス学教授

選考委員
矢島 綾
世界保健機関西太平洋地域事務所
顧みられない熱帯病 専門官

アドバイザリーパネル

［役割・機能］会長、CEOおよびマネジメントチームへの戦略的な相談役

アドバイザー
アワ マリー コール セック
セネガル共和国保健大臣
元ロールバック・マラリア・パートナーシップ
エグゼクティブディレクター

アドバイザー
佐藤 玖美
株式会社コスモ・ピーアール
代表取締役社長

アドバイザー
ロレンゾ サビオリ
元世界保健機関NTDs対策部門
ディレクター

アドバイザー
ピーター シンガー
グランド・チャレンジ・カナダ
CEO

アドバイザー
ハーベイ V ファインバーグ
ゴードン&ベティー・ムーア財団プレジデント
元米国医学研究所所長

アドバイザー
穂積 大陸
Management Science for Health
保健医療技術担当 シニアディレクター

アドバイザー
マイケル ライシュ
ハーバード大学公衆衛生大学院
国際保健政策武見太郎記念講座教授

LEADERSHIP
リーダーシップ

外部審査員

世界中の感染症および製品開発の専門家が、GHIT Fundの外部審査員としてプロポーザルの評価を行っています。

Akinori Kimura
Alan Fairlamb
Ami Shah Brown
Ann Ginsberg
Birgitte Giersing
Brian Greenwood
Bruce G. Weniger
Carl Mendel
Carol Marzetta
Carole A. Long
Charles Mgone
Charles Mowbray
Christine Debouck
Clifton E Barry
Dan Stinchcomb
Daniel E. Goldberg
Daniel Neafsey
David A Fiddock
David Brown
David Pompliano
Dennis Kyle
Donato Zipeto
Elizabeth Winzeler
Eric Chatelain
Filip Dubovsky
Gerd Michel
Giuseppe Pantaleo
Gray Heppner
Greg Matlashewski
Herman Feldmeier
Hidehito Kotani
Hing Sham
Hiroyoshi Endo
James Le Duc
James Mckerrow
JoAnne L. Flynn
Judy Sakanari
Kaoru Terashima
Katsushi Tokunaga
Kent Kester
KJ Singh
Lee Hall
Lewellys F. Barker
Lynn Soong
Marcel Tanner
Marleen Boelaert
Meg Phillips
Michael Free
Michael Kurilla
Michael Witty
Mickey Urdea
Moriya Tsuji
Nadia Tourniporth
Nancy Le Cam Bouveret
Naoto Keicho
Nathalie Strub-Wourgaft
Niranjan Kanesa-thasan
Nisha Garg
Pantaleo Giuseppe
Paul Kaye
Paul Roepe
Paul Wyatt
Peter Andersen
Peter Dailey
Peter G. Kremsner
Peter John Myler
Peter Ruminski
Peter Smith
Philip Russell
Polly Roy
Punnee Pitisuttithum
R.Kiplin Guy
Rebecca Richards Kortum
Regina Rabinovich
Ricardo T Gazzinelli
Richard Adegbola
Rino Rappuoli
Sanjay Gurunathan
Sanjay Jain
Sanjeev Krishna
Shigeyuki Kano
Shing Chang
Simon Campbell
Simon Croft
Somei Kojima
Stephen Johnston
Stephen Ward
Sue Kinn
Takafumi Tsuboi
Takashi Fujitsu
Takushi Kaneko
Thierry Diagana
Thomas Dick
Timothy K. Lu
Timothy Wells
Toshihiro Horii
Walt Brandt
Yoshihisa Hashiguchi
Yukihiro Akeda
Yves Ribeill
Zarifah Reed

パートナー

Full Partners

Associate Partners

Affiliate Partners

Sponsors

GHIT Fund

Global Health Innovative Technology Fund

Ark Hills Sengokuyama Mori Tower 25F,
1-9-10 Roppongi, Minato-ku,
Tokyo 106-0032 Japan
TEL:+81-36441-2032 FAX:+81-36441-2031
www.ghitfund.org